midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

October 2010 No.292-293

１０月号の１枚：川崎ネイチャーフェスティバルの積み木広場、今年も大盛況

［巻頭言］森林再生・・市場の変化を生かせ

森林再生のチャンス

「森林再生を期待できる好機にある」と言う菅首相が再選された。ロシアや東南アジアの木材輸出国が資源保護に乗り出した為に国産材の需給変化が起こり、木材自給率が18%から24%になった。日本の森林の蓄積は40億m^{3}あり、毎年８千万m^{3}が増えている。

相模原市は森林ビジョンを作成中だが、津久井の急峻・複雑な地形に作業可能な林業機械入れ、効率の良い林業再生を目指すべきだ。国内重機メーカーが、地形に対応できる小規模林道開削の試作機を発表している。また、細切れ境界になっている森林の効率的な施業対策としては、群馬・多野東部や京都・日吉町森林組合の集約施業方式を参考にして取り組めば良い。

相模原市は、政令都市になったばかりだから、余計なシガラミがなく白紙の状態である。それ故、これらに取り組めば画期的な森林再生政策が打てる筈だ。新生政令都市・相模原市は、時勢・地勢的な側面から“森林再生事業”に取り組むべきと思う。それ故、当会として市に対して「内陸・グリーンハブ都市」を提言している。提言に止めず、具体的には「小原本陣の森・集約施業」に取り組んでいるが、NPOがこんな先端的な森林整備をしている事に驚きの声もある。

永遠の太陽エネルギーを吸収している森林の資源的価値は、一次産業と言うよりは木材の可能性としてBTL（Biomass To Liquid：木材由来燃料）やリグニン（コンクリートに混ぜる等強化剤、土壌改良材等に利用）、エタノール等の可能性もある。こんな先端的な事でなくとも森林は、建材・パルプの供給源だ。相模原市が市場の変化を察知して、新しい視点の森林再生事業を創出すれば、森林管理に苦しむ我が国・林業の救世主になる事が出来る。

石村　黄仁（本会、代表理事）

来月の定例活動

2010.10

１０月　３日（第一日曜日）；
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
１０月１７日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

9月5日（第一日曜日）

9月に入りましたが、まだまだ暑く、夏を感じさせる1日でした。参加者がいつもより少なかったのですが、今回も楽しく元気に活動しました。

今回の活動は前回の続きで、倒れて放置されていた木を使っての土留めと、作業の際に通りやすくするための径路づくりを行いました。

土留め・径路づくりは毎月行っているため、だんだんと作業の要領がつかめてきているようで、声を掛け合ってみんなで協力して行っています。ただ、前日に雨が降ったこともあり、木が水分を含んでいて運ぶのに一苦労でした。スリングという紐を使ったり、転がして運んだりと、なるべく力の負担をかけずに移動させる方法を模索しました。

径路づくりでは、木を杭でとめ、通るところの土を耕して道にします。下の写真が実際に作った径路です。だんだんと作った径路の距離も長くなっていって活動の成果を感じられるので嬉しいです。
今回は土留め・径路作りの作業で終了しました。あのあたりは、倒された幹や枝が大量に横たわっているのでそれを移動・片付けるのは大変でした。が、作業した分終わった後の気分は充実しています。

次回も頑張りたいと思います。

廣石　由美（Forest Nova☆）

[定例活動]若柳嵐山の森

9月19日（第三日曜日）

栗拾いの秋！

９月半ば過ぎ、異常残暑の森の入口で朝礼前のひと時を「栗拾い」に精を出す仲間あり。そして、森の中では「ホトトギス」の花が可憐に咲いていた。

この日の参加者は「生命の森宣言グループ６名、望星の森１６名、学生連合５名、一般参加１７名、計４４名の参加」あり。同日学生連合本隊１０名とJFIK（全国インストラクター神奈川会）８名、みんなの森３名、こどもりクラブの６名、計２７名は、恒例の川崎ネイチャーフェステイバルに参加。

・「生命の森宣言班」はA地区沢上部の下草刈りと森を暗くする常緑広葉樹の伐採。この班はベテランで構成しているため各自、かなり広範囲に受け持ちを決めて取り組んでいる。

A地区では、仕事が捗って森がズンズン明るくなって行く。見通しの良くなった森の姿に「気持ちイイ――！」の感想。

・B地区に取り組む「学生連合フォレストノバ」は、春夏期の下草刈りと作業路つくり。
　作業路つくりは、若さパワーの大胆な手法！！。ここでは神宮学生（女性）がリーダーでハッパを掛けるが、男子学生の知恵と工夫と力でダイナミックな作業路が仕上がっていた。

・望星の森：樹高直径測定は、日大院生の・倉田さん、永井さんの指導で１２０本もの栃の木の測定をやり上げた！。森の中で語り合う先生と生徒の姿に“自然の中の人間同士って良いなぁ～”と思わせられる。

・森林整備本隊：森の入口・広葉樹の森を起点に水源地と望星の森の２ルートから角田会員発案の雁行式径路（雁が並んで飛ぶように間伐材の止木を斜めに置く、水捌けの良い削道）もほぼ完成の状況。
　汗ビッショリとなった皆さん、基地本部の氷麦茶が上手かった！。

・木工班松尾さんによると、小原の森作業で出た間伐材を活かしてのベンチ作りでは、地元交流に大いに効果があったと、ジックリと話を聞かせて貰った。勿論、福祉協議会から受注したベンチ作りも進んでいます。

・造園お花畑班：青山さんとお孫さん二人、ノビノビと栗拾いも加わって森を楽しんでいた。

　お昼は具イッパイのトン汁。食べきれないほどの大鍋が空ッぽに。
帰りのお土産は栗とゴ―ヤでした。

伊藤　小夜子（本会、会員）

左：径路づくりをするForestNova
右上：角田会員発案の雁行式径路
右下：トチノキ毎木調査

[報告１]
日中友好　中国青少年団
訪日 緑のダム体験学校

８月２５日（火）

中国の青少年と
一緒に楽しんだ交流会

中国青少年団（中国書法協会青少年書法交流協会代表団）訪日「緑のダム体験学校」が今年8月25日（水）、ここ若柳・嵐山の森で行われました。森に訪れたのは、中国全土（31の省自治区）から選ばれた小学生１６人、中学生１６人、高校生10人の42人からなる秀英とその父兄、通訳、官庁職員など総勢約93人。緑のダム北相模が中国の中央政府から選ばれた青少年を迎え入れるのは日本でも初めての事。緊張と期待の中、全国インストラクター神奈川会の応援も得て、川田さんをリーダーに約30名のサポート体制で一行を迎えました。

この度の中国全土から選ばれた中国青少年代表団の来訪は、　26年前から書道を学ぶ中国の青少年との交流を主催している成田山新勝寺の3年前からの受け入れにより実現しました。中国青少年代表団一行の3日間の来訪の内、今回は日本の自然環境を体験したいとの願いを、緑のダム北相模が承諾し、全面的な協力のもとに初めて実現しました。

当日、9時に到着した一行は午前中はリクレ―ション活動としてブルーベリー狩りとソーメン流しを体験。無農薬で育てられた鈴木さんの畑では、たわわに実ったブルーベリーに舌鼓をうちながら旬の味を堪能。また山の竹を割ってつくったソーメン流しでは、次々に流れるソーメンに子供たちは大はしゃぎ。器用にソーメンをすくい上げたり、こぼしたりと、とにかく笑顔の絶えない時間となりました。また、歓迎の印として昼食後の井伊さんの詠う詩吟(漢詩)に合わせて、中国の来訪者も一緒に詠うサプライズもありました。

午後は河口さん、内野さんら森林インストラクターと共に六班に別れて森に入りましたが、昼食後に森を守る大切さと「緑のダム」の意味をフォレストノバ(学生連合)神宮さんの手づくり紙芝居で学習し、また森林の知識は、神奈川会が事前に作成したクイズ形式の解説文でしっかり勉強していました。こうした日本側の配慮に、

森を体験した事のない中国の子ども達は、森はまさに自然のクーラーの様に快適で気持ちがよい場所であると実感し、この体験は感動的であった様です。

インストラクターの説明を食い入るように見つめ、体験を重視する「緑のダム体験学校」のモットーで子供たちは手で触ったり臭いをかいだりと、木や生き物に対する興味は深まる一方で、二時間あまりの山歩きも疲れた表情は微塵も見られませんでした。

昼食後の余興では瀬尾さんが草笛を披露し、参加者の合唱を誘いましたが、森では辻さんが「キラキラ星」の中国語歌詞を持参し、子供たちと合唱しながら森を歩くという光景も見られました。このように一緒に楽しむという、まさに中国と日本との貴重な文化交流は双方にとって得るものが大きいイベントとなりました。

今回の活動に対し、中国側政府高官も高く評価をしており、来年もぜひ実現させたいというコメントをいただきました。

丸茂　喬（本会、理事）

[報告２]
第７回　川崎ネイチャーフェスティバル参加

9月19日（日）

このイベントは、子供たちの未来のために「創ろう！かわさきの森・守ろう！水源の森」～『命』と『水』をはぐくむ豊かな森を引き継ぐために～というテーマのもと、私たちForestNova☆もブースを出展し、「木を使うことは森を守ること」を発信するために木材（間伐材）を通して「森林の価値」を高めてもらい、「都市と森をつなげる」きっかけをつくりました。

この目的を達成するために、間伐材を使い、木に触れ合ってもらい、持ち帰っても大切にしてもらえる事。パネル、紙芝居、絵本を使い都市と森のつながりと森の重要性を知ってもらう。という要素が必要であると考え、今回の出展は間伐材を利用した「時計作り」「オブジェ作り」「ドアプレート作り」の3つと、パネルを使ったForestNova☆の活動説明、紙芝居の読み聞かせによる日本の森林・環境問題の発信を行いました。

当日は道具の問題等により、開催時間にブースを開ける事が出来ずスタートが遅れてしまいましたが、当日スタッフの協力もあり無事に出展することができました。

参加者の森林問題の話を聞いているときの真剣な目、初めての作業で自分の作品を完成させたときの笑顔にはたくさんの刺激を受けました。

今回の出展に参加したことで森林問題・環境問題について親子で少しでも変化が見られればなと思います。

最後に、今回企画の準備段階から当日の出展方法など学ぶことがとてもありました。他大学との協力、交流や、今回の出展により森林問題・活動の発信の方法など個人としてもこれからの活動につなげ活かしていきたいと思いました。

植木　聡（ ForestNova☆）

[報告３]
緑のダム湘南の森

8月3日に、市民ファンドの対象プロジェクトである「ガイドマップ」の制作に向けて、ＧＰＳを用いてのルートの踏査と植生調査を行いました。湘南平から高麗山までの約１．８キロのルートに沿って５０Ｍおきにポイントを取りながら、主要な樹木をおさえてゆくという作業です。ＧＰＳは複数の衛星を使った位置情報検知システムで、結果をパソコンに取り込み、カシミール３Ｄというソフトを経由することによって、１：６０００の地形図にポイントと歩いたルート（トラック）が表示されるという優れ物です。面倒な測量作業にとって代わる新手法で、今回はこの手法が使えるかどうかをテストするものでした。詳細は省略しますが、結果は大成功でした。講師の西田さんは日本山岳会の会員で、パソコンとＧＰＳの権威、佐藤とは旧知の間で今回の出馬となったものです。図は西田氏より送信されてきたもので赤線が歩いた跡、丸い点が５０Ｍおきにとったポイントで、
現地には杭を打ってあります。

8月28日はヤングから年寄りまで、女性も４名と理想的な年齢構成のボランティアグループを形成、まさに老若男女でした。初心者が多かったので、センターヤードとバックヤードの草刈りを行いました。森の仕組みや道具の使い方を丁寧に教えてから、作業開始、それぞれに森を楽しんだ休日でした。海からの風が涼しく、今年初めて秋の気配を感じました。

佐藤　憲隆（緑のダム湘南の森）

[事務局からの
お知らせ、お願い]

９月号から会報の郵送を取りやめています。継続して郵送を希望される方は以下をお読みください。

現在、会費は３千円です。最近はNPOが増えているため、助成金の確保が難しくなっています。総会で決まった通り、事務費低減のため、会報は当会ホームページの閲覧を原則として、従来通りの郵送をご希望の方には、郵送費（１千円）を負担して頂きます。（ご希望のない場合は郵送は致しません）
ご協力よろしくお願いたします。

木工班メンバーを募集しています

木工班では、班長見習い１名、メンバー２名を募集しています。

間伐した木材を活用し、ＦＳＣ認証の森のグッズの商品化を目指しています。若柳嵐山の森の伐採現場での簡易製材、オリジナリティある製品の企画や製作に参加してくださる方を募集しています。

今まで実際に製作したものは地元の福祉協議会や駅前の飲食店に納入、活用されています。
興味がある方は事務局までご連絡ください。

国土緑化推進機構の日本の森林ボランティア２０団体に

国土緑化推進機構で代表的な森林ＮＰＯとして全国２０団体が紹介されることになり、神奈川県として本会の名前が挙がっています。代表的な森林NPOということですが、来月号で詳細を報告します。

相模原市・市民協働推進条例のタウンミ―ティングに参加

相模原市・市民協働推進課主催のタウンミーティングに参加しました。本会は、相模原市と「小原本陣の森、林地団地化・集約施業」に取り組んでおり、事例報告を行いました。詳細は来月号で報告します。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸・・何か美味しいものを準備する)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を@に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ